

キャラクター名 岡崎徹

プレイヤー名

シンドローム、ワークス、UGNチルドレンC、カヴァー、オプショナル、年齢、性別、男、覚醒、忘却、衝動、嫌悪、初期侵食率、32%、出自、天涯孤独：アマゾンの動物達、経験、脱走：ライバル、邂逅、借り：ヨハン・C・コードウエル

基本値、ワークス、ボーナス、成長、他修正、能力値、HP、34、行動値、6、(非装備時)、6、戦闘移動、11、全力移動、22

肉体、感覚、精神、社会、技能、SL、修正、白兵、10、回避、1、知識、UGN、6

武器・コンボ、能力、命中値、G値、攻撃力、射程、素手、白兵、6r+10、0、-5、素手（破壊の爪）、白兵、6r+10、0、LV+8、素手（全盛り）、白兵、18r+10、0、その他、愚者の爪、白兵、18r+10、0、その他

防具、価格、装甲、回避、行動、最大財産P: 4、残り財産P: 4

所持品、【愚者】の証明、ダインスレイフプログラム

合計装甲: 0、合計回避: 0、ロイス、対象、感情(pos)、感情(neg)、タリタス、消費

スキル名、SL、コスト、タイミング、射程、対象、判定、制限、メモ、ワーディング、★、-、オート、視界、シーン、自動、-、効果: 非オーヴァードのエキストラ化、リザレクト、0、1d10、気絶時、-、自身、自動、↓100、効果: コスト分のHPで復活、コンセントレイト: キュマイラ、3、2、メジャー、-、-、-、-、効果: 組み合わせた判定のクリティカル値をLVの値だけ引き下げる。下限値は7。フルパワーアタック、5、4、セットアップ、至近、自身、自動、80%、効果: 行動値を0にし、白兵攻撃の攻撃力を+(LV)×5する。神獣撃、2、2、メジャー、武器、単体、対決、80%、効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力を+(LV+2D)する。銘なき刃、1、1、メジャー、武器、自身、白兵、-、効果: 効果使用時素手攻撃の攻撃力を(LV+1)する。増腕、1、2、メジャー、武器、範囲(選択)、自動、ピュア、効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃の対象を範囲(選択)に変更する。1シーンにLv回まで使用できる。獣の王、1、4、メジャー、武器、単体、対決、100%、効果: 1シナリオ中1回まで使用できる。対象はリアクションを行えなくなる。獣の魂、1、5、オート、至近、自身、-、100%、効果: 【肉体】を使用する判定の直前に使用する。+5Dする。1シーンにLv回まで使用できる。ハンティングスタイル、2、1、マイナー、至近、自身、-、-、効果: この効果は1シーンにLv回しか使えない。戦闘移動を行う。完全獣化、1、6、マイナー、至近、自身、-、-、効果: 使用したシーン中【肉体】の能力値を使用したあらゆる判定のダイスを+(LV+2D)する。剛身獣化、1、6、マイナー、至近、自身、自動、ピュア、効果: シーンの間素手攻撃力を+「LV×2」し、装甲値を+「LV×3」する。究極獣化、7、4d10、マイナー、至近、自身、-、120%、効果: 攻撃のダメージを+(LV)Dし、装甲値を+10する。破壊の爪、1、3、マイナー、至近、自身、-、-、効果: 使用したシーン中素手のデータを書き換える。戦闘本能、1、3、マイナー、至近、自身、自動、-、効果: 使用したメインプロセスの間、判定のダイスを減少させる効果を受けない。1シナリオにLv回まで使用できる。

幼い頃、飛行機で旅行中に飛行機がアマゾン上空でツダの如く空中分解、爆発四散した。乗客乗員は自身除き死亡。自身は生き残ったもののアマゾンで遭難。しかし生まれ持ったの異能力により動物達と友好関係を結ぶ。アマゾンで遭難中、十数年間ともに日本語を使わなかったせいか言語能力が退化している。アマゾンの環境に適応し、肉体を鍛えて鍛え抜いたが心は未熟な徹には、飛行機事故よりも前に出会った赤理という慕っていた女性が居た。眠れない夜もあったが十数年間彼女のことを忘れた日は一月ほどの時間しかなかっただろう。【追記】彼の獣化は不安定であり、獣化した際の姿は状況次第で大きく変わる。

※Borderline of Beastトレーラーを読んだの追記 岡崎徹の【獣】と【獣ではないもの】の線引きは人との関りを嫌い、人を襲うが荒くれものが【獣】であるならば。人を想い、仲間を想うアマゾンの動物達のような心優しいものは【獣ではないもの】として認識している。彼が暴走し、飢餓の衝動に駆られた際に完全獣化し、発見した異形の獣の姿は紛れもない【獣】そのものだった。なればこそ、アマゾンは今、獣とそうでない者の間に立っているのだろう。たとえアマゾンの森に帰れたとしても彼は、【獣ではないもの】として、いや、【人間】として自身と、UGNの仲間達と、カピ康を筆頭としたアマゾンの動物達と向き合い、本当の笑顔と日常を取り戻せるのだろうか。

Wandering_Roseの一件を受けて、岡崎徹は日本語をほぼ完璧に習得した。しかし激情、もしくは程々に獣化しているときはカタコトに戻ってしまう。アマゾンに遭難してなお慕い続け、両親を失った大きな心の隙間を埋めていた存在である赤理が日本に帰還した数年前に亡くなっていたことにより、徹は心に大きな傷ができてしまう。【徹はその心の傷のせいでは本当の笑顔をし、本当の日常を失ったのだろう。たまにふと空を見上げたり、普段食事の際に美味いと言っているだろうが、本当は味覚も麻痺しているし、映る世界もどこか白黒に見えるだろう。時々、彼は夢に見る。平和であった飛行機事故の前の思い出を、耐え難い苦痛の事故当時を、その苦痛を和らげてくれたアマゾンの動物達を……。】だからこそ、徹は振る舞いは変わらず気丈に振る舞うであろう。今を生きる理由は生きる意味を見つけるため、過去への執着を捨てるため、赤理を忘れないため、そして支部での生活を守るためである。※【】内は後付け追記

Prologue The Magusにおいて、完全獣化の際に異形の獣に成り果てる可能性が浮上した。これにより、この先獣に成り果てる恐怖により完全獣化をためらうことがあるだろう。だが、それでも彼らには必要とあらばためらいを捨て進むだろう。それが獣に墮ちる道であったとしても。

